

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内西 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	14人	算数	14人	理科	14人
第5学年	国語	16人	算数	16人	理科	16人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

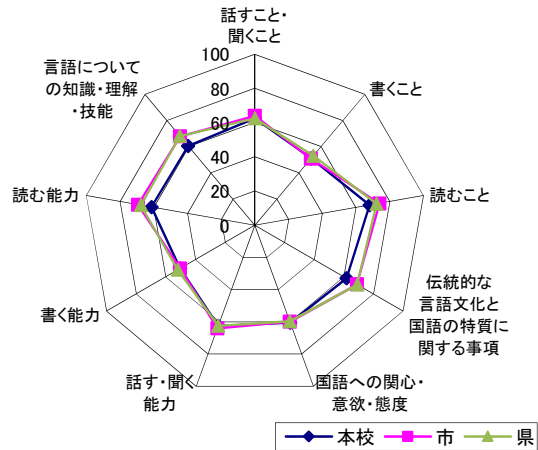
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.5	64.0	62.5
	書くこと	51.0	50.9	53.1
	読むこと	68.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.8	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	60.4	59.9	59.7
	話す・聞く能力	62.5	64.0	62.5
	書く能力	50.4	50.4	52.0
	読む能力	61.3	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	60.7	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

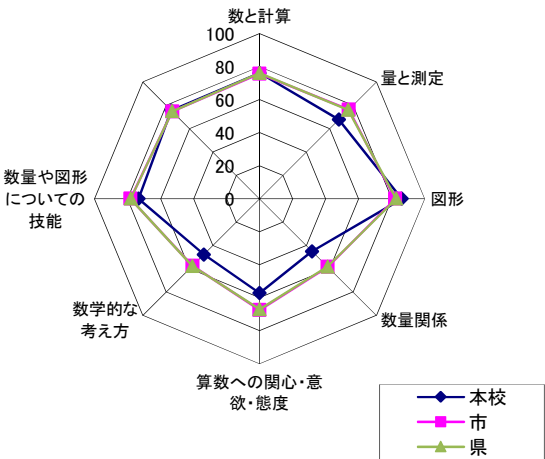
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の正答率は62.5%で、市・県の平均とほぼ同じである。 ●「インタビューの質問のねらいを理解する」設問の正答率は33.3%、「聞きたいことをもとに質問の内容を考える」設問の正答率8.3%で、県の平均より低い。	・聞きたいことに合わせて質問の内容を考えるためには、授業の中だけではなく、実生活の中でインタビューをする活動を取り入れることが大切である。そのためには、何のために聞くのか、どんなことを聞くのかというように、インタビューの目的に合ったメモを作成したうえで行うようにしていく。
書くこと	領域の正答率は51%で、市・県の平均とほぼ同じである。 ○「書くこうとすることの中心を明確にして文章を書く」「理由や事例を挙げて書く」についての正答率はどちらも70%以上と県の平均を上回っているが、他の領域に比べて無解答の割合が多い。 ●「指定された文章量、段落を意識して書くこと」については、県の平均より低い。	・相手や目的の応じて、話の内容を的確にとらえ、それをもとに文章を書く力をつける必要がある。行事作文や短作文、学習の振り返りなどで内容を整理しながら気軽に書く機会を多く設けたり、自分の書いた作文を読み直す場面を設け、段落や文章構成や文量を意識させたりしながら、書く力をつける。
読むこと	領域の正答率は68.1%で、県の平均より低い。 ○「説明文に書かれている内容を読み取る」設問の正答率は91.7%と、市・県の平均よりもやや高い。 ●「登場人物の気持ちを読み取る」設問の正答率は50%で、県の平均より低い。	・物語文では、どの文から登場人物の気持ちがわかるか、また、場面の移り変わりによってどのように登場人物の気持ちに変化していくのかなどを意識して読むことを強化していきたい。 ・説明文では、段落ごとに要旨をまとめたり、それぞれの段落がどのように関わっているのか考えながら文章構成図を書いたりすることを通して、文章の内容を的確に読み取ることができる力をつけていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の正答率は61.8%で、県の平均より低い。 ○既習漢字の読みに関する設問の正答率は、すべての設問で市・県の平均とほぼ同じである。 ●「ローマ字のつづりの理解」の設問の正答率は25%と県の平均より低い。また、既習漢字を書く設問の正答率が低い。	・国語の授業だけでなく、日ごろから国語辞典を手元におき、分からない言葉に出会ったときすぐに辞書を引くように声をかけ、習慣づける。 ・漢字については、漢字練習をするだけでなく、短文づくりを取り入れたりしながらより一層の定着を図る。 ・ローマ字を日頃から書いたり、パソコンでローマ字入力を行ったりすることでしっかりと身につけさせていくようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.2	75.8	76.1
	量と測定	67.9	76.5	76.0
	図形	86.1	82.1	82.7
	数量関係	45.0	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	57.1	67.4	67.0
	数学的な考え方	47.8	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	73.4	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	75.6	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

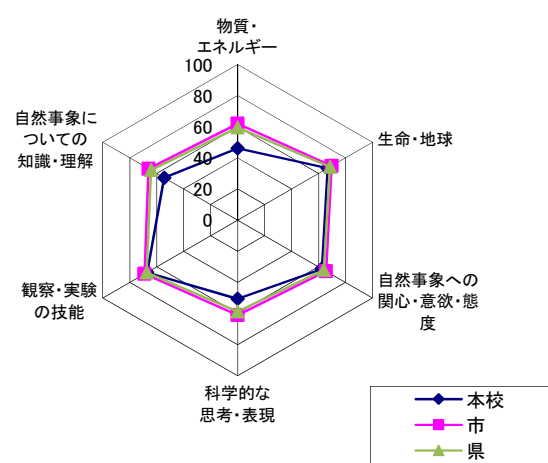
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の正答率は、76.2%で、市・県の平均と同程度である。 ○あまりのあるわり算や分数のたし算の計算では、正答率が100%のものもあり、市・県の平均よりも大きく上回った。 ●2けた×2けたの工夫した計算の仕方を説明する設問の正答率は33.3%と県の平均より低い。	・計算については、継続的に取り組んでいたこと成果が出ているが、さらなる定着を図るために、四則計算の復習を宿題などに取り入れ、継続して学習できるようにする。 ・自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにするために、記述したり、伝えたりする機会を意図的に設ける。
量と測定	領域の正答率は67.9%で、県の平均よりも低い。 ○「身近にあるものの重さの単位を見積もること」「道のりの意味や地図から道のりの大小を考えること」の設問の正答率は、県の平均よりも高い。 ●時刻と時間について問う設問についての正答率は、どの設問においても市・県の平均より低い。	・実生活の中でも、時刻や時間を意識する機会を増やしていきたい。また、時刻や時間に苦手意識を持っている児童も少なくないので、授業や家庭学習の中で、意図的に秒を分に直したり、かかる時間を求める問題に取り組む機会を引き続き増やしていきたい。
図形	領域の正答率は86.1%で、市・県の平均よりもやや高い。 ●円の直径についての設問では、県の平均と同等であるが、球の半径から箱の長さを求める設問の正答率は、県の平均よりもやや低い。	・球の直径や半径がどこに当たるのかを具体物を用いて再度しっかりとおさえるとともに、実際にボールを直方体の箱に入れるなど、具体物を使って作業的な学習をすることを通して、日常体験から学ぶことができる活動を増やしていく。
数量関係	領域の正答率は45%で、市・県の平均よりも低い。 ○□を使って簡単な減法の式に表す設問の正答率は、県の平均と同等である。 ●文章を読んで正しい式を選ぶ設問や棒グラフから書かれている値を読み取ったり、1目盛りの値を読み取ったりする設問では、県の平均よりも低い。	・文章問題に多く取り組ませるとともに、文章を読んで図や線分図で表し、問題に書かれている情報を整理する時間を意図的に設け、わからない数である□は何かの理解を深めていく。 ・文章問題を解く際、じっくりと考える時間を設けたり、グループでの話し合いを設けることにより、多種多様な考え方に触れる機会を意図的に作る。 ・他教科でも棒グラフに表す機会を設け、活用力をつける。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	46.1	61.9	59.4
	生命・地球	66.7	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.5	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	50.6	61.0	58.8
	観察・実験の技能	67.1	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	54.5	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の正答率は46.1%で、県の平均よりも低い。 ○「風のはたらきについて説明すること」、「形を変えても重さは変わらないことを理解し、説明すること」についての設問の正答率は県の平均よりもやや高い。 ●「電気の通り道」に関する設問の正答率は、どの設問においても、県の平均を大きく下回っている。	・「電気の通り道」については、4年で学習する「電気のはたらき」と関連している。様々な導線のつなぎ方や回路を示し、電気が通るかどうかを考えさせる活動を取り入れ、習熟を図る。また、電気を通すものについても、復習していく。 ・光の進み方や反射させ重ねた光の明るさなど、既習事項であるが、再度体験的に学ぶ活動を意図的に設け、知識の定着を図る。
生命・地球	領域の正答率は66.7%で、市・県の平均とほぼ同じである。 ○「身近な自然の観察方法」「昆虫のからだのつくり」に関する設問の正答率は、市・県の平均とほぼ同じ、もしくは、やや上回っている。「遮光板の正しい使い方」に関する設問の正答率は、100%である。 ●「昆虫の育ち方や育て方」に関する設問の正答率は、県の平均よりも低い。 ●「太陽とかげの動き」についての設問の正答率は16.7%で、県の平均よりも低い。また、「日なたと日かげの地面の変わり方の様子から時刻を推測する」設問の正答率は50%で、県の平均よりも大きく下回っている。	・「太陽と地面の様子」については、4年で学習する「天気の変化」「月と星」の学習と関連している。授業の中で再度「太陽」についても取り上げ、太陽とかげの位置変化を方位で捉えることや、日なたと日かげの地面の温度は時刻とともに上がることを復習していく。 ・「昆虫の育ち」などについても、身近な自然の観察を通年通して行うことにより、理解を深めていく。 ・観察の結果から考察する場面において、ペアやグループでの話し合いを意図的に設けることにより、様々な考え方に触れさせたい。また、授業で学んだ科学的な言葉である「茎」「回路」などの言葉を用いて自分の言葉でまとめる活動についても多く取り入れ、言語活動の充実を図る。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて学習している」「家で宿題をしている」「家で学校の予習をしている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、市・県の平均とほぼ同じである。特に、「家で学校の予習をしている」という質問に対する肯定的な回答の割合は、64.3%で市の平均を上回っている。このことから、家庭学習に取り組む姿勢が身についているということが分かる。

○「毎日の生活が充実している」「クラスは話やすい雰囲気である」「友達と話し合うとき、最後まで聞くことができる」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、市・県の平均とほぼ同じ、もしくは、やや上回っていることから、相手を受け入れることができるあたたかい雰囲気ができていることが分かる。しかし、「自分の考えを話すことが得意である」「話し合いに進んで参加している」という質問に対する肯定的な回答の割合は、市・県の平均よりも低くなっていることから、一人一人が自信をもって自分の意見や考えを発表することができるように、考えを書かせてから話し合いを行うなどの工夫をしていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」「早寝、早起きを心掛けている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、市・県の平均よりも高くなっている。特に「朝食を食べている」という質問に対する肯定的な回答は100%で、基本的な生活習慣が身についていることが分かる。しかし、「普段、テレビやビデオを見ている時間」が1時間から3時間と答えた児童が57.2%と半数おり、また、「ゲームをしている時間」が全くしない児童もいるが、3時間以上と答える児童もいることから、家庭と連携を図りながら、家庭での時間の過ごし方について考えていく必要がある。

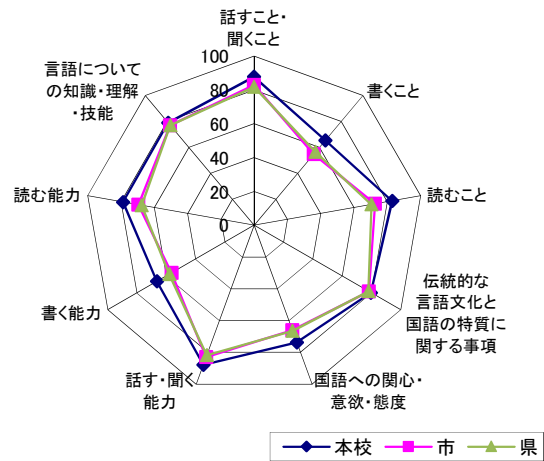
●「家で授業の復習をしている」という設問に対する肯定的な回答の割合は、市・県の平均よりも低いので、予習だけでなく、復習の大切さを改めて伝え、学習の方法を紹介したり、提案したりしながら、家庭学習のさらなる充実を図っていききたい。

●「自分によいところがある」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、県、市の平均を下回っている。また、「むずかしいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「自分はクラスの人役に立っていると思う」という質問への肯定的に回答している児童の割合も、市・県の平均を下回っている。このことから、自己有用感、自己肯定感が低いことが分かった。授業中や学校生活の中で、善い行いや素晴らしい考えを称賛したり、友達の良さだけでなく自分の良さを見つけるような活動を取り入れたりする機会を意図的に設け、自己有用感、自己肯定感を高めていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	87.8	82.9	81.8
	書くこと	65.6	54.8	56.5
	読むこと	82.9	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.7	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	73.8	66.0	66.4
	話す・聞く能力	87.8	82.9	81.8
	書く能力	66.4	56.3	57.9
	読む能力	78.8	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	79.2	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

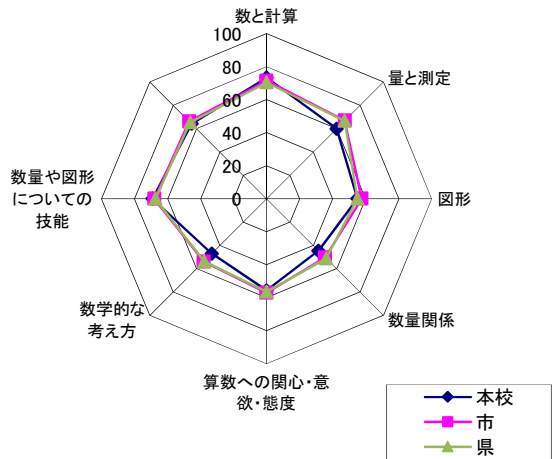
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は87.8%で、県の平均を高い。前年度と比較し、向上した。 話の中心に気を付けて聞き取ったり、話し方の工夫に注意して聞き取ったりすることがよくできている。話し方や聞き方の指導を教科内だけでなく日常生活の場面に応じて行ったことが成果につながったと考えられる。 ●話の概要は捉えているが、2者の話の共通点をまとめることに課題が見られた。	・日常生活でも話の要点を随時確認していく。 ・授業の中で実際に役割を決めて話し合い活動を行う。小グループでの話し合いから全体での話し合いに広げ、より要点をしぼった話し方や考え方を練習したい。
書くこと	平均正答率は65.6%で、県の平均より高い。前年度と比較し、向上した。 ○アンケートの調査結果から読み取ったことを書いたり、2段落構成で書いたりすることがよくできている。学校行事や新聞記事の内容について作文をし、書く活動を定期的に取り入れたことが成果につながったと考えられる。	・資料の活用については、まず資料を読み要約をすることで、内容理解ができるように指導する。また、各目的や相手を意識した表現を考えさせ、日記や新聞、短い意見文を工夫してかせる練習をしたい。
読むこと	平均正答率は82.9%で、県の平均よりかなり高い。前年度と比較し、向上した。 ○文章構成を考えたり、登場人物の気持ちを深くとらえたりすることができている。日々の読書量が多く、また、低学年のうちからブックトークを行ってきたことで、読解の基礎が定着していると考えられる。	・全体的な内容を捉えて読み取る問題はよくできているので、話の大きな流れはつかんでいると考えられる。今後は形式段落ごとの内容をまとめさせたり、キーワードに注目して話を読み進める練習をさせ、文脈に即してより正確に読み取る力を育てたい。また、登場人物の細かな心理描写などにも着目させることで、登場人物の気持ちの変容などを丁寧に読み取るような指導をしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は79.7%で、県の平均より高い。前年度と比較し、向上した。 ○漢字の読み書きのほとんどは県の平均を上回っているが、その中で熟語の一部や送り仮名などの誤答などが目立った。また、部首名などの漢字の構成についての理解の不十分さが見られる。 ●主語と述語、修飾語の意味や活用が曖昧であった。	・主語、述語、修飾語についてと文の構成を考え、理解させる学習を繰り返し取り入れていく。 ・既習漢字は国語以外の学習の中でも積極的に使うように言葉を掛け、児童の習熟に合わせて定着を図るように指導する。また、日常生活の中での国語辞典の活用を推奨し、授業中の使用にとどまることなく活用することで、言語に興味関心が広がるよう指導したい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.3	71.5	70.4
	量と測定	60.0	67.0	66.9
	図形	55.0	57.6	55.0
	数量関係	44.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.6	57.0	56.3
	数学的な考え方	47.0	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	69.2	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	64.2	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

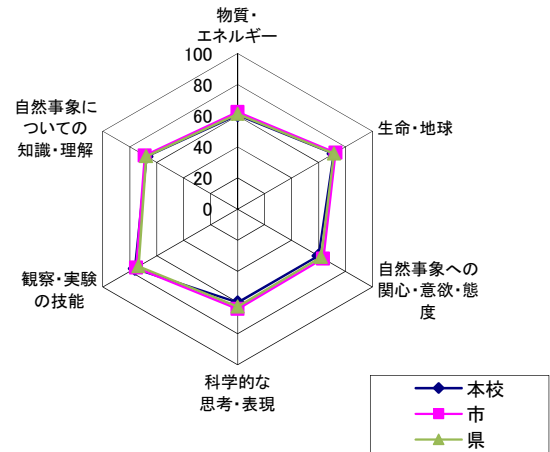
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は73.3%で、県の平均より高い。前年度と比較し、やや向上した。 ●四則計算は比較的良好にできているが、概数を用いた計算は、県の平均を下回っている。	・今後も計算の仕方を振り返ったり、図を用いて演算決定をしたりしながら、児童のつまづきやすい小数・分数の計算の処理を正確に行えるよう指導していきたい。 ・文章問題を表した図の構造をとらえたり、文章問題に合った式を選んだりすることに対する戸惑いが推察される。数直線や線分図などに対する利便性を感じさせ、自らの立式に生かすような指導を行う。
量と測定	平均正答率は60.0%で、県の平均より低い。前年度と比較しても、低い。 ●複合図形で、面積の求め方や図から式を求めることに課題が見られる。図形の特徴や公式などは覚えていたが、それらを活用するまでの知識理解に至っていないことが表れた。	・面積の見当をつけたり、単位の仕組みを考えたりしながら、量感と単位に関する知識を身に付けさせたい。 ・複合図形などのように多面的な見方が必要な問題では、それぞれの図形の特徴を踏まえながら、順序立てて考えていくための論理的な思考の向上が必要である。
図形	平均正答率は55.0%で、県の平均より低い。前年度と比較しても、低い。 ○ひし形の作図や四角形の対角線の性質の理解は、県平均を上回っている。 ●直方体のある辺に垂直な辺を問う問題など多角的に見たり、視点を変えて解いたりすることに課題が見られる。	・図形の約束や性質の学習において、平行になる辺や同じ長さの辺に印をつけさせた上で、図形の特徴と照らし合わせ、どの特徴を用いたのか自覚できるようにしたり、作図したり、視覚的に分かりやすい活動を行う。
数量関係	平均正答率は44.4%で、県の平均より低い。前年度と比較しても、低い。 ●読み取った資料を根拠に理由を説明したり、伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことに課題が見られる。	・場面や状況を数式に表すことに課題がある。身近なものを図などを用いて表したり、説明したりする活動をより多く取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.4	62.4	61.1
	生命・地球	71.3	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.0	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	60.0	64.1	62.6
	観察・実験の技能	76.2	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	67.6	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の正答率は60.4%で県の平均をやや下回っている。前年度と比較し、やや向上した。 ○「物の体積と力」と「物の体積と温度」のすべての設問で、県の平均を上回っている。 ○「電気のはたらき」のすべての設問で、県の平均を上回っている。 ●「物のあたたまり方」「水のすがた」についてのほとんどの設問で、県の平均を下回り、可視化しにくいものについて推測することに課題が見られる。	・水、金属、空気のあたたまり方に関する理解を深めるため、それぞれの変化をできるだけ可視化し、確認できるような授業を行うことで、推測しやすくできるように支援する。 ・科学的な思考・表現の観点において、前年と比較し、向上したが、まだ県の平均を下回っている。さらに、思考力・表現力の向上を図るため、授業において自分の考えを根拠を示しながら説明することや、順序立てて考えたりする活動を多く取り入れるようにする。また、他教科においても理由を明らかにしながら自分の意見を記述・発表する機会を設け、表現する力を伸ばしていく。
生命・地球	領域の正答率は71.3%で県の平均をやや下回っている。前年と比較し、向上した。 ○「天気のようにすと気温」のすべての設問で、県の平均を上回り、気温の変わり方から天気を推測することができた。 ○「月と星」の問題では、月に関するすべての設問で県平均を上回り、月の名称や動きを理解していることが分かる。また、星座早見を正しく使うことはできるが、星座の動きの理解に課題がある。 ●「自然の中の水」の「容器にふたがあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解している。」ことに関する設問の正答率は20%で、県の平均より大きく下回っている。 ●「ウサギの背中がまるく曲がる理由を推測することができる。」ことに関する設問の正答率は46.7%で、県の平均よりかなり下回る。	・星や星座の動きについて、知識がより定着するよう、星に関する単元を学習している時だけではなく、年間を通して星の観察をする機会を定期的に設ける。 ・観察・実験の技能については、県の平均より高く、気温の計測や星座の早見の使い方をよく理解している。 ・知識・理解の観点がかが昨年度より低下していることから、基本的な問題を理解させる時間を多くとり、分かりにくい部分は何度も繰り返し説明をすることによって基礎力の向上を目指す。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家で、学校の宿題をしているという設問に対して、児童の肯定的回答が100%であり、家庭での学習が習慣化していると考えられる。しかし、「計画を立てて勉強している」や「学校の授業の予習をしている」などの設問に対して、児童の肯定的回答が県の平均を下回っていることから、決められたものに対しては、積極的に行うことができるが自主学習などのような課題に対して戸惑いを感じられる。

○学校の授業以外の1日当たりの読書時間は30分以上の児童が60%、1カ月の読書量が50%が11冊以上、5冊以上は25%と全体の75%であり、県平均を大きく上回っている。

○「学校の宿題は、自分のためになる」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についての肯定的回答が100%であり、目標や目的をもって取り組んでいることがうかがえる。

○自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が56.3%、友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意な児童は56.3%であることから自分の考えを持ち、伝え合う力が弱いことが分かる。考え方、話し合いの進め方や発表の仕方のモデルを示し、思考力、判断力、表現の力を伸ばしていく必要がある。

●本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ているという設問に対して、肯定的回答が37.5%で、難しい問題に出会うとやる気が出るという設問に対して肯定的回答が37.5%であることから、課題に対して自分なりに調べて解決しようという意欲が低い。その反面、自分ひとりの力で課題を解決しようとしているという設問に対して肯定的回答が87.5%であることから、課題解決方法を具体的に示し、解決する時間を設けて取り組むようにする。また、自分から課題を見つけ、取り組んでいる児童を称賛することで、学ぼうとする意欲を高めていく。

●学校での役割や係の仕事を責任をもって取り組んでいるという設問に対して、児童の肯定的回答が87.6%であるにもかかわらず、自分はクラスの役に立っていると感じていない児童が75%いる。このことから、自分としては一生懸命やっているけど、他者に認められていなかったり、自分に自信を持てなかったりと、自己有用感が低い児童が多いことが分かる。当番活動や係活動に責任を持って取り組んでいる児童を認めたり、友達やクラス、学校のために良いことをした児童を称賛したりすることで、自分は人の役に立っていることに気付かせ、行動や発言に自信が持てるようにする。

●平日の一日当たり2時間以上テレビゲームをする児童が50%であり、2時間以上テレビなどを見る児童が56.3%いることから、家庭と連携した家庭での時間の過ごし方について考えていく必要がある。

●各教科等の学習に対する必要感の割合は、国語と算数において100%の児童が肯定的な回答をしている。理科や社会、技能教科においても、教科独自の学ぶ楽しさと学ぶ意義を実感させる指導に努めていく必要がある。

宇都宮市立上河内西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、全体で家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。	家庭学習時間については、学年差はあるが、県・市より全くしない日の割合が低い傾向があり、徐々に向上している。しかし、自分で内容面の充実を図ったり、それを組み立てたりする計画性については、県・市より低い項目が多い。自学ノートを学年だよりで掲載し、啓蒙を図っているところである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年共に算数が県・市より低い領域が多い。詳しく見ると、文章問題にあった線分図や折れ線グラフや棒グラフの読み取りが共通して低い。思考力を伴い、記述する問題が苦手傾向があり、学年が上がることに無解答が増えている。	朝のパワーアップタイムの充実	朝の学習で、4～6年生は算数だけを重点的に取り扱うことにした。習熟に合わせ、落ちがあれば、学年を遡って復習させ、習得できれば、どんどん進めさせることができる学習体制を学校全体で作ることにした。基礎力を付け、学びに向かう持久力を身に付けさせたい。